

動物調査の目標について

動物調査の目標は以下のとおりとした。

・ 現況植生タイプごとの動物群集の相違を把握することを目的とする調査

植生タイプごとにどのような動物群集が成立しているのかを把握し、植生タイプごとの特性を明らかにする。現況を捉えることにより、大台ヶ原の中での地域ごとの問題点を抽出する（参考資料3-1, 3-2）。

・ 動物群集の変化を時間軸のなかで捉えることを目的とする調査

過去に行われた調査と同一地点、同一手法で行うことが可能な分類群（小型哺乳類・繁殖鳥類等）においては、過去との比較を行い、現状と比較する。また、これまでに、群集としての調査がなされていない分類群（両生類等）や調査手法を同一手法で検証するのが困難な分類群（昆虫類等）においてはファウナの構成に変化が見られるか否かを調査することで、現在と過去の比較検証を試みる。また、今後、動物群集がどのように変化していくかをモニタリングする必要から、その基礎データを提供する。

平成15年度調査と群集レベルで比較可能と考えている文献は以下のとおりである。この他にも若干の未発表のデータを収集している。引き続き、文献の収集に努めるとともに、過去の動物相のリストや大峰山脈との比較から、現在欠落している種が存在するかどうかを検証する予定である。

文献名	群集
日本野生生物研究センター 1985. 特定自然環境地域保全管理計画策定調査報告書	小型ほ乳類（ネズミ）
池山雅也・倉田篤 1972. 紀伊半島大台ヶ原山における鳥類の生態調査報告 2. トウヒ林およびブナ林における鳥相. 大杉谷・大台ヶ原自然科学調査報告書. pp. 147-159 + Pl.	繁殖鳥類
日本野鳥の会奈良支部 1997. 日本野鳥の会奈良支部30周年記念事業(8)個別集計表. いかる (79): 35.	繁殖鳥類

動物調査における調査地設定基準とする植生区分

再生事業実施地域内

◆トウヒ群落

植生タイプ	林冠密度	ササ種類	ササ疎密度	コケ疎密度	ミヤマシギミ	区分記号(※)	シカ被食の程度
林冠中ミヤコザサ密タイプ	中	ミヤコザサ	密	疎	疎	C	大
林冠密ミヤコザサ疎タイプ	密	ミヤコザサ	疎	疎	疎	E	中
林冠密コケ密タイプ	密	ミヤコザサ	疎	密	疎	F	小
林冠密ミヤコザサ密タイプ	密	ミヤコザサ	密	疎	疎	G	中

◆ブナ-ウラジロモミ群落

植生タイプ	林冠密度	ササ種類	ササ疎密度	コケ疎密度	ミヤマシギミ	区分記号(※)	シカ被食の程度
林冠密スズタケ疎タイプ	密	スズタケ	疎	疎	疎	E	中
林冠密スズタケ疎ミヤマシギミタイプ	密	スズタケ	疎	疎	密	F	大
林冠密スズタケ疎コケタイプ	密	スズタケ	疎	密	疎	G	中

◆ブナ-ウラジロモミ代償群落

植生タイプ	林冠密度	ササ種類	ササ疎密度	コケ疎密度	ミヤマシギミ	区分記号(※)	シカ被食の程度
林冠密スズタケ疎タイプ	密	ミヤコザサ	疎	疎	疎	O	大
林冠密スズタケ疎ミヤマシギミタイプ	密	ミヤコザサ	密	疎	疎	N	中

◆トチノキ-サワグルミ群落

植生タイプ	林冠密度	ササ種類	ササ疎密度	コケ疎密度	ミヤマシギミ	区分記号(※)	シカ被食の程度
林冠密スズタケ疎タイプ	密	スズタケ	疎	疎	疎	C	中

◆ミヤコザサ群落

◆スギ-ヒノキ群落

※区分記号:資料3-1参照

大峰山脈弥山地域

◆トウヒ群落

◆ブナ-ウラジロモミ群落

◆スギ-ヒノキ群落

上記3タイプの植生でシカ被食の程度が少ない地点を選択的に設定する

大台ヶ原自然再生推進計画調査・野生動物現地調査（案）

哺乳類調査

- 1) 地表性小型哺乳類調査
- 2) 哺乳類相調査
 1. 地中性モグラ類調査
 2. コウモリ類調査
 3. 中・大型哺乳類調査

鳥類調査

- 1) 鳥類調査
 1. テリトリーマッピング
 2. ルートセンサス
 3. 夜行性鳥類調査
- 2) 環境調査
(上層植生、下層植生、土壌動物調査)

両生類（爬虫類）調査

1. 水環境調査
2. 生息状況調査

昆虫類等調査

- 1) 定量的調査
 1. ビットフォールトラップによる地表性甲虫類調査
 2. 大型土壌動物調査
 3. 食材性昆虫類調査
- 2) 定性的調査
 1. 希少種等探索のための任意調査
 2. 食菌性甲虫
 3. 筒住性ハチ類・竹筒トラップ
 4. 糞虫
 5. 鱗翅類
 6. 水生昆虫
 5. クモ類